

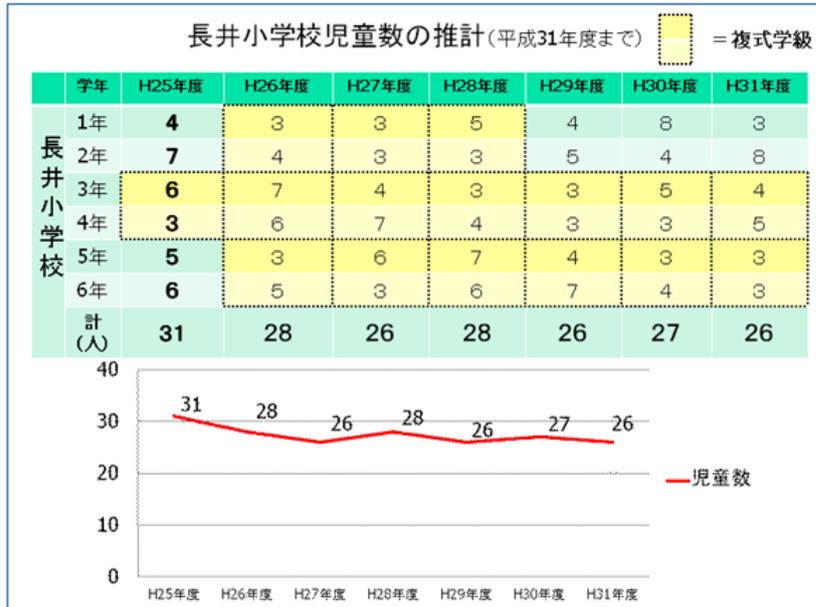
長井小学校の教育環境について

◆長井小学校の児童数の推移

長井小学校の平成25年度の学級は【図1】のとおりで、1・2・5・6年生は単学級、3・4年生が複式学級となっています。

5・6年生は11人で、本来は複式学級になるところですが、兵庫県教育委員会との協議の上で、昨年と今年の2年間の継続事業として、学年別の学級編制とし、専科の教員を担任として配置しています。

【図1】



◆長井小学校の授業の様子

【図2】の左上の写真は5年生、右下は6年生で、いずれも単学級の授業の様子です。

【図3】は、教科によっては少人数のため、2学年合同で授業を行う場合もあります。

【図2】



【図3】



3・4年生の複式学級では、基本的に1人の教師が2学年の児童に同時に授業を行っています。

国語、算数、理科、社会については、学年の発達段階に応じた教科内容の系統的な指導に配慮して、学年別の授業を行っています。

【図4】は算数の授業風景ですが、3年生と4年生が、背中合わせで別々の単元を習っています。教師は両学年に課題を与え、交互に指導を行っています。

【図4】



また、生活、音楽、図画工作、家庭科、体育、道徳、総合的な学習は、2学年同一内容の授業が行われ、2年間を見通した教材内容としています。上の学年に下の学年をリードさせるなど、学年差を生かした授業を展開しています。【図5】

【図5】



◆一般的に言われている小規模校の強みと弱み

【図6】【図7】は、小規模校について、教育的な観点からみた強みと弱みについて、それぞれまとめたものです。

これまで一学級35人40人に行われてきた画一的な一斉指導と比べた場合、児童数が少ないという特性を見ると、一般的にいわれている特徴として次のようなことがあげられます。

【図6】

小規模校の強みと弱み 

一般的に言われている 強み（長所）

- ・一人ひとりに目がよく届き、きめ細かい少人数指導により個性や能力をしっかりと把握できる
- ・つまづきを素早くとらえることができ、継続的な指導も容易である
- ・安定した人間関係で温かい雰囲気がある
- ・授業での発言回数や、行事での役割り担当が増える(子どもの出番が増える)
- ・異学年、異年齢でお互いに学び合える

【図7】

小規模校の強みと弱み 

一般的に言われている 弱み（短所）

- ・切磋琢磨する機会が限られ、主体性、積極性や望ましい競争心が育ちにくい
- ・人間関係が固定化・序列化しがちである
- ・交流の相手が限定されるので、社会性や生活力が不足しがちである
- ・家庭的な雰囲気のため、節度ある態度、きびきびした態度、我慢強さなどが育ちにくい
- ・望ましい人数のグループやチームが編成できず、学びを高め合う集団学習の機会が不足する

次に、小規模校の中でも複式学級を編制する場合の長所と短所について、一般的にいわれている傾向については下記のとおりです。【図8】【図9】

【図8】

複式学級の強みと弱み

一般的に言われている 強み（長所）

- ・児童一人ひとりに「個」に応じた学力や能力の育成ができる
- ・異学年の交流を通して、学年を超えた「学び合い」の態度の育成ができる
- ・自ら学び、自ら考える力の形成ができる
- ・上学年はよきリーダーとしての自覚が生まれ、下学年は上学年から学ぼうとするなど、児童を成長させる



【図9】

複式学級の強みと弱み

一般的に言われている 弱み（短所）

- ・学級内に学年意識が生じやすく、上下関係が強調されるなど、指導上の配慮が必要である
- ・複数学年の授業を同時に進めるため、直接指導の時間が少なくなり、集中力が途切れやすい
- ・極少人数のため、多様な考えが出にくく、自学自習が発生することから課題を深く追求することが難しい
- ・同世代の仲間とのつきあい方など、発達段階に応じた育ちが難しい



このような長所と短所について、十分理解した上で、小学校では、創意工夫しながら授業を行っています。

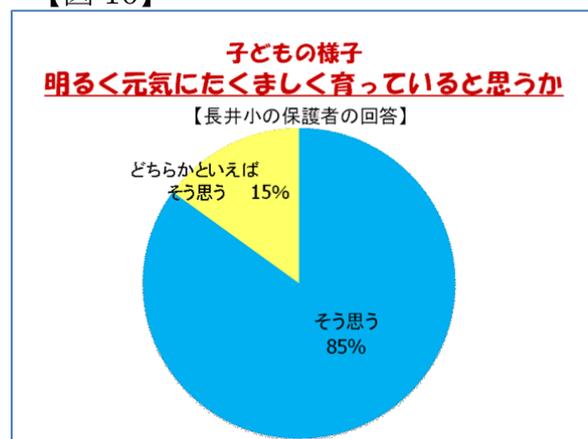
◆教育環境アンケートから

町内の幼稚園・小・中学校の全保護者と町民の皆さん2千人を対象にして昨年7月に実施した「香美町教育環境についてのアンケート」調査結果の中から、関係する項目について紹介します。

今回のアンケートを通して、町内の児童生徒の保護者の学校園への関わり度合いは極めて高く、全体的に見て学校園への信頼と期待は高い傾向にありました。

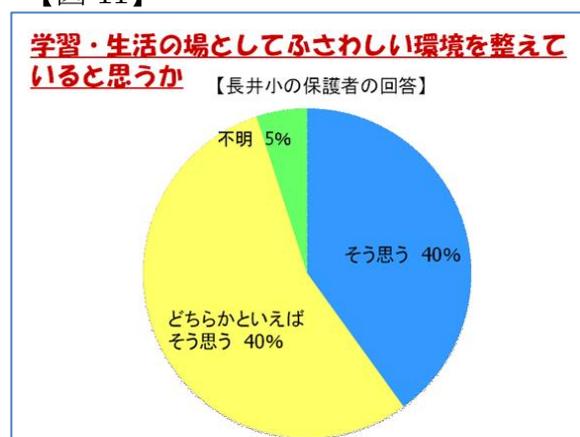
【図 10】は、長井小学校の保護者の皆さんに子どもの様子について、「明るく元気にたくましく育っていると思うか」どうかお聞きしたところ、85%の人が「そう思う」、15%の人が「どちらかといえばそう思う」と回答しています。

【図 10】



また、学校が「学習・生活の場としてふさわしい環境を整えているかどうか」の問いに対しては、95%の人が「ふさわしい環境を整えていると思う」と回答しています。【図 11】

【図 11】

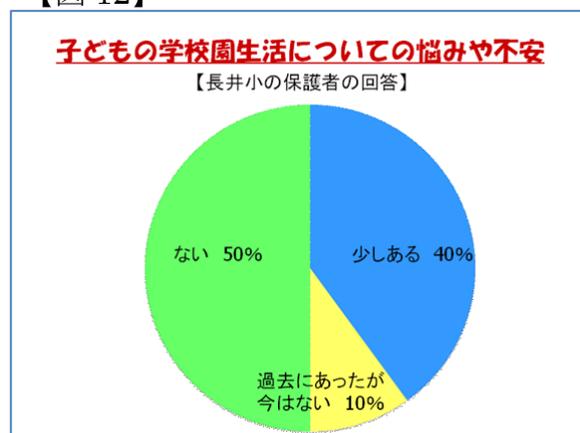


しかし、わが子の学校生活についての悩みや不安を抱えている保護者が、「少しある」人は40%、「過去にあったが今はない」人が10%ありました。

悩みや不安の主な内容としては、「友だちとの関係」や「学習や成績」があげられていました。

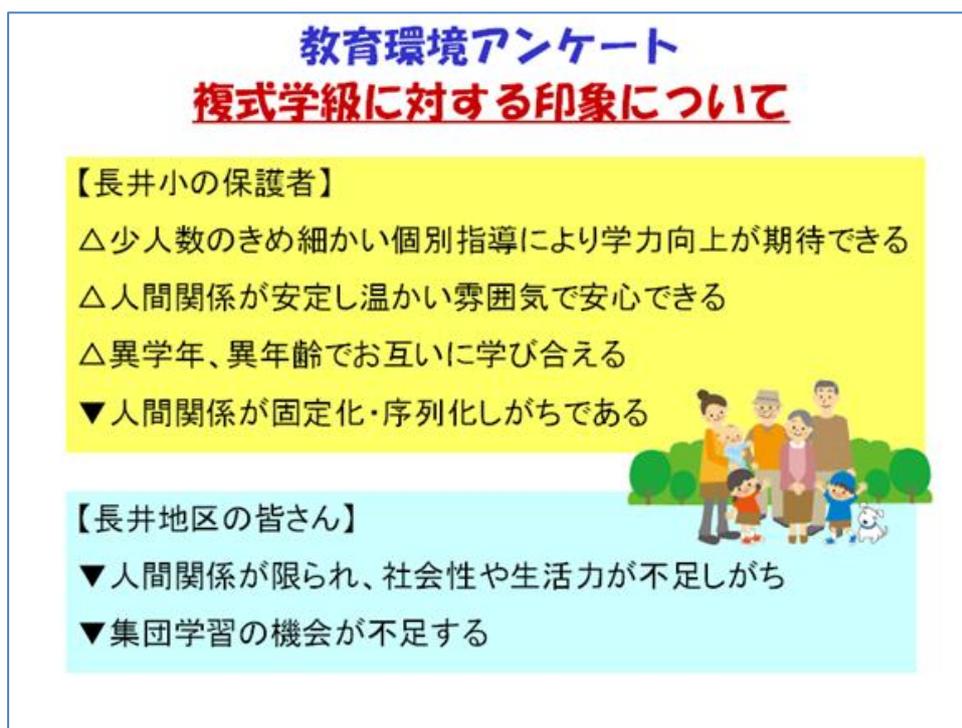
【図 12】

【図 12】



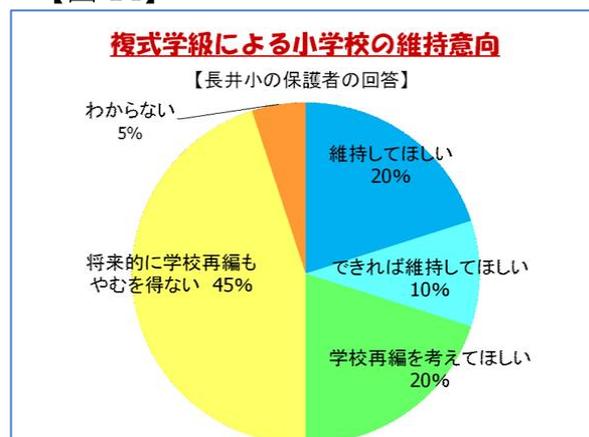
現在の複式学級に対する印象について、長井小学校の保護者と長井地区の皆さんの回答は【図13】のとおりです。

【図13】



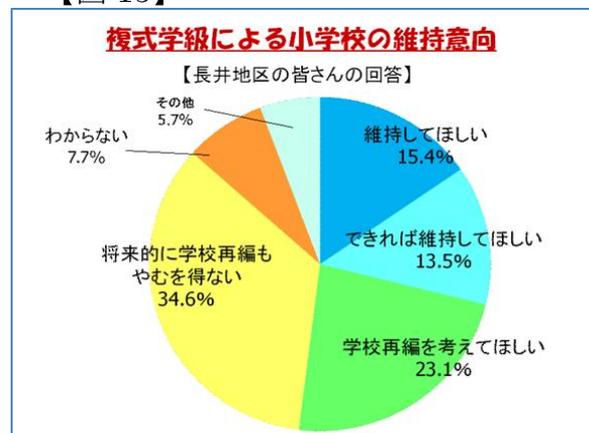
全学年が複式学級になった場合の小規模小学校を維持していくべきかどうかについて聞いてみたところ、長井小学校の保護者の皆さんは、「維持してほしい」が20%、「できれば維持してほしい」が10%、「学校再編を考えてほしい」が20%、「将来的に再編もやむを得ない」が45%、「わからない」が5%でした。【図14】

【図14】



保護者以外の長井地区の皆さんの小学校の維持意向については、「維持してほしい」が15.4%、「できれば維持してほしい」が13.5%、「学校再編を考えてほしい」が23.1%、「将来的に再編もやむを得ない」が34.6%、「わからない」が7.7%でした。【図15】

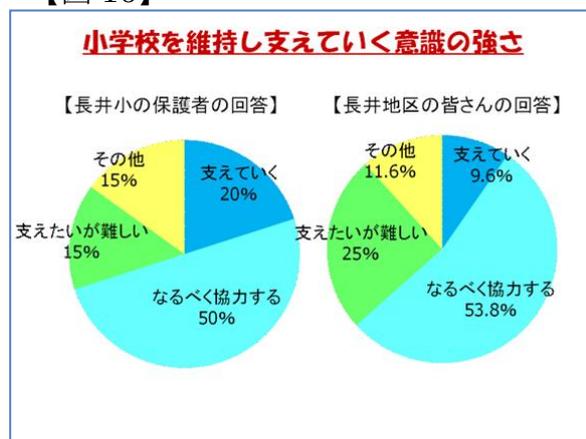
【図15】



また学校を維持した場合、支えていく意識があるかどうか聞いてみたところ、保護者の皆さんは「支えていく」が20%、「なるべく協力する」が50%、「支えたいが難しい」が15%でした。

一方、長井地区の皆さんは「支えていく」が9.6%、「なるべく協力する」が53.8%、「難しい」が25%でした。【図16】

【図16】



◆ヒト、モノ、お金（財源）

子どもたちの教育環境について考える場合、ヒト、モノ、お金・財源を見ていく必要があります。

まず、ヒトについてですが、児童、教職員、保護者など学校に直接的に関わるヒトだけでなく、見守り隊、ふるさと教育応援団、地域住民、公民館や各種団体など、学校を取り巻くヒトたちも貴重な教育資源といえます。

【図17】は、教育条件について、神戸市、豊岡市と香美町を比較したデータです。人口当たりの小中学校設置率を見ると、香美町は1,450人に1校あり、神戸市や豊岡市と比べて手厚く設置されていることがわかります。

【図17】

また、教職員1人当たりの児童生徒数について、神戸市や豊岡市と比べてみると、香美町では教職員1人当たり小学校8人、中学校8人となっています。

このことを言い換えれば、香美町には児童生徒当たりに多くの教員が配置されており、子どもたちは少ない人数できめ細かな指導を受けているということであり、本町の教育条件が優位であるととらえることができます。



次にモノについては、学校を取り巻く自然環境、家庭環境、学校施設がそれにあたります。

長井小学校の校舎については、昭和 51 年、鉄筋 3 階建ての現在の校舎ができ、翌 52 年に体育館が竣工しています。学校施設は、子どもたちが一日の多くを過ごす学習や生活の場であり、地震などの災害が発生した場合、地域の皆さんの避難場所として重要な役割を担っています。【図 18】

しかし、長井小学校の校舎については、現在の建築基準による耐震化ができていません。児童の安全を第一に考え、あわせて地域の防災拠点としての役割を担っていくため、耐震化を進めていく予定です。

【図 18】



【図 19】



学校の教職員は、最大の教育環境です。【図 19】

香美町の 10 小学校には 128 名の教職員が勤務しており、長井小学校では、校長先生をはじめ 11 名の教職員が学校経営に携わっています。この教職員は香美町の地方公務員であり、その人件費は国と兵庫県から支出されています。

多くの教師がおり、きめ細かい指導ができるということは、教育力は高いといえます。

また、小中学校に対しては、国から町に地方交付税というお金が入ってきます。義務教育は、憲法上の国民の権利・義務に基づき行われるもので、国は国民が全国どこでも一定の内容と水準の教育を受けられるよう保障する責任を負っているため、学校の人件費や維持経費の多くは国や県が負担しています。

町の財政が厳しいなら、早く学校統合すればいいのに、というご意見をお聞きすることがありますが、学校統合すると、この国からの交付税も減ることになるので、町の財政が必ずしも楽になるとは限りません。少なくとも長井小学校については、統合することにより財政的にはマイナスになると予測されます。

◆長井小学校の教育実践

長井小学校は、全校児童 31 人と小規模ではありますが、「ふるさとを愛し ところ豊かにたくましく生きる 児童の育成」を目標に、少人数ならではの個に応じたきめ細かい指導と地域に根差した学校教育を展開しています。

これまで、紹介してきました各学年の授業以外に、長井小学校の特色ある教育として、学農園での田植えや稲刈りなどのコメづくり体験、ナシの袋かけ体験【図 20】、矢田川でのアユの放流やアユ釣り体験学習【図 21】、食育・調理実習、祖父母に学ぶ会、本の読み聞かせ【図 22】、あいさつさき運動、百人一首大会などがあげられています。

このように長井小学校では、地域の特色を生かしたふるさと教育に積極的に取り組んでいます。

長井地区では、子どもたちの登下校の安全を守ろうと「長井っ子サポート隊」ががんばっておられます。【図 23】

学校整備では、PTAの奉仕作業にあわせて、長井地区の皆さんの協力をいただいております。

長井地区の子どもたちは、保護者や地域の皆さんに支えられながら、育っています。

【図 20】



【図 21】



【図 22】



【図 23】



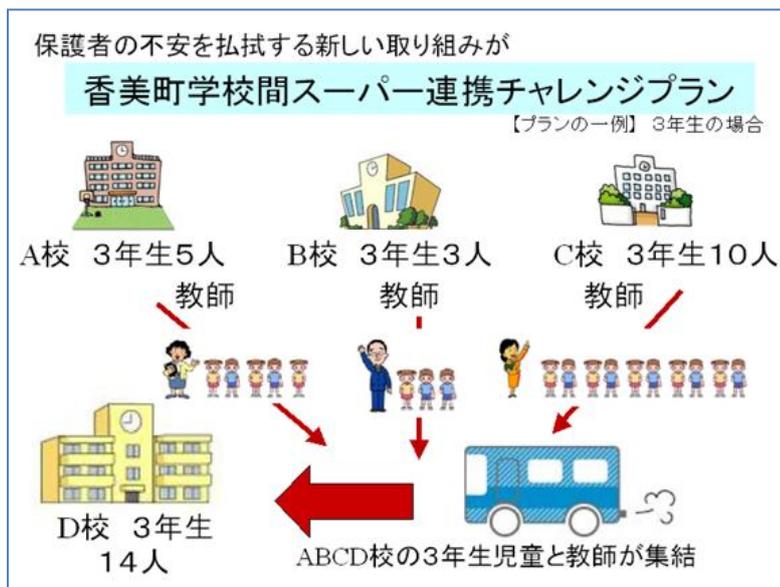
◆香美町学校間スーパー連携チャレンジプラン

【図 24】

香美町では、今年度から小規模の小学校同士が連携して、多人数授業に取り組む「学校間スーパー連携チャレンジプラン」をスタートさせています。

【図 24】

長井小学校の児童は、奥佐津・佐津・柴山・余部小学校の子どもたちと毎月合同授業を行っています。保護者の皆さんが不安に感じておられる小規模校1校では行えない多人数授業を行うだけではなく、複数の教師により児童の学習到達度や関心度、意欲に応じたきめ細かい指導も行っています。



【図 25～28】は、1学期の授業風景です。普段の授業では、できない多人数でのドッジボールの試合や、大縄跳び、体力テストなどを行い、他校の児童と交流しながら、成長していく姿が見られました。

このチャレンジプランを通じて、小学校の担任教師は他校の教師と協力しながら、小規模校ならではの授業づくりにチャレンジしています。保護者の皆さんが期待される各教科の基礎的な学力の向上に加え、自ら学ぼうとする意欲や自分の考えを表現する力を着けさせていきます。

地域のよりどころとして信頼される学校づくりをめざして、教育関係者が一丸となって取り組んでいます。

【図 25】



【図 26】



【図 27】



【図 28】



さまざまな課題が起こる現代社会において、地域の将来の存続は、次代を担う子どもたちがたくましく育ってくれるかどうかにかかっています。

今求められているのは、自立し、努力し、課題を乗り越え、自分で判断して進んでいける能力や志をもった人づくりです。そのような人こそ、香美町を元気にしてくれる人材になってくれるものと確信しています。

小規模校ならではの、そして長井地区ならではの教育により、子どもたちはたくましく育つ可能性を秘めています。

香美町教育振興基本計画では「ふるさとに学び 夢や志を抱き ふるさと香美を大切にする人づくり」を基本目標に掲げており、家庭、学校、地域が一体となって町の将来を担う子どもたちをたくましく育てていきたいと考えています。

